

# 鳥取県の政策に関する県民意識調査の結果について

令和5年10月11日  
県民参画協働課

「鳥取県令和新時代創生戦略」に掲げる政策をはじめ県政全般の満足度などについて県民にアンケートする「鳥取県の政策に関する県民意識調査」(第8回)を実施しましたので、その結果について報告します。

## 1 調査概要

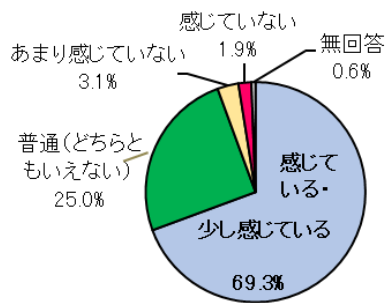
- (1) 目的 県民の関心や意向、要望等の意識を把握するとともに、継続調査をすることで、その意識の変化を把握し、今後の県政推進の基礎資料として活用する。
- (2) 調査対象 県内在住の18歳以上75歳未満の者3,000名(住民基本台帳に基づく無作為抽出法)
- (3) 調査方法 郵送(回答は調査票の返送又は電子申請サービスによる回答のいずれかを選択)
- (4) 調査期間 令和5年6月30日から8月25日まで
- (5) 回答数 1,706名(1,706/3,000名 回答率:56.9%(令和4年度比1.8ポイント減少))

## 2 結果概要

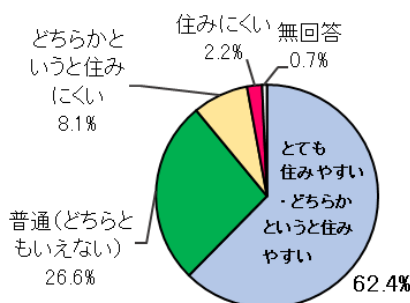
### I 鳥取県の住みやすさ

- ①「鳥取県に対しての愛着や誇り」には、69.3%の人が「(愛着や誇りを)感じている」と回答し、「今暮らしている地域の住みやすさ」には、62.4%の人が「住みやすい」と回答した。いずれも高い水準ではあるものの、令和2年度から毎年度やや減少傾向にある。
- ②「鳥取県の暮らしに関してどう思うか」10項目について聞いたところ、「そう思う」との回答は「豊かな自然環境に恵まれている」が88.7%で8年連続で最も高く、次いで「地域の治安が良いと感じている」が65.7%であった。
- ③鳥取県に暮らしていて、どの程度幸せか(10段階評価、10が「とても幸せ」)を聞いたところ、「5」(普通)が28.0%、次いで「8」が19.9%で、「5」以上の回答は90.4%と全体の約9割を占め、前年度(89.1%)に引き続き高い割合となった。

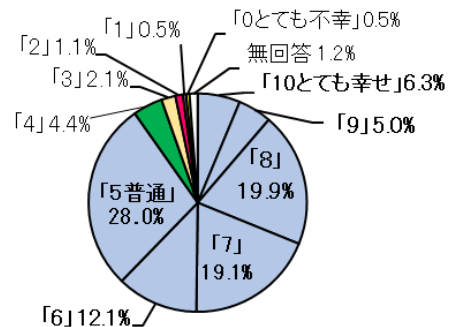
鳥取県に対して愛着や誇りを感じているか



今暮らしている地域の住みやすさ



鳥取県に暮らしていて、どの程度幸せか



### II 鳥取県の施策の満足度と今後の優先度

(1) 鳥取県が実施している施策等に関し、①～③のテーマごとに満足度(5段階)及び今後の優先度(重要度が高い取組を3つ選択)について質問した。

#### ①豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる

7つの取組について聞いたところ、満足度は昨年度と比較して概ね横ばいで、今後優先すべき項目は「農林水産・畜産業の若き担い手育成への取組」が58.4%と最も多く、平成28年度から毎年度割合が増えている。

#### ②人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む

9つの取組について聞いたところ、満足度は昨年度と比較して概ね横ばいで、今後優先すべき項目は「結婚・出産・子育ての希望を叶える取組」が50.9%と最も多く、次いで「地域で子育て世代を支える取組」50.5%となっている。

#### ③幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ

9つの取組について聞いたところ、満足度は昨年度と比較して概ね横ばいで、今後優先すべき項目は「移り住みたい・住み続けたい・帰りたい鳥取県を創造していく取組」が62.9%と最も多く、前年度から4.9ポイント増加した。

## (2) 男女共同参画社会づくり

### ①男女に関する役割などについて

8つの項目について聞いたところ、「現実として家事が女性の役割となっていると思う」「現実として子育てが女性の役割となっていると思う」「現実として介護が女性の役割となっていると思う」のいずれの項目も「そう思う（「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の計。以下同じ。）」の回答は、依然として70%以上の高い割合であるが、このうち「家事」及び「子育て」については、「そう思う」の割合は年度ごとに減少傾向にある。

### ②男性の家事、育児、介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策

8つの施策を提示したところ、「男性の家事・育児・介護への参画を当たり前のことと捉える社会全体の機運の醸成」が58.5%と、5年連続で最も多かった。

## (3) SDGs（持続可能な開発目標）の推進

### ①SDGsという言葉・内容を聞いたことがあるか

「聞いたことがある」は87.9%、「聞いたことがない」は10.8%であった。「聞いたことがある」は、令和2年度（29.9%）以降、毎年度割合が増えている。

### ②SDGsの8つの優先課題のうち、「2030年の鳥取県」に向けて行政が特に力を入れるべき課題

「省・再生可能エネルギー、防災・気候変動対策、循環型社会」が42.1%、「平和と安全・安心社会の実現」が39.3%と昨年度に引き続き上位となっている。

## Ⅲ 重点施策への関心・認識 空き家増加問題への対応について

### ①住んでいる地域では空き家が増えていると感じるか

「増えていると感じる」は67.2%、「増えているとは感じない」は18.1%であった。

### ②空き家が増加すると問題と思われること

「放置され、周囲に危険を及ぼす老朽化した建物が増えること」が86.7%と最も多く、次いで「衛生環境や治安の悪化など、住環境の不安につながること」が73.2%であった。

### ③将来空き家を管理する可能性

「ある（ご実家や、現在、親や親族などが居住している住宅を相続する場合等）」が36.3%、「ある（住み替えによりご自分の住まいが不要になる場合）」が10.6%、「ない」が36.5%だった。

### ④自分の住まいや実家等の将来について話し合う必要性を感じているか

「話し合いの必要性を感じる」の回答が約8割（79.8%）となっているが、そのうちの約半数は「具体的な話し合いの予定はない」としている。

### ⑤空き家問題の解決に向けて特に必要だと思われること

「行政による支援の充実」が54.9%と最も高く、次いで「空き家所有者・管理者の意識改革」が43.1%であった。

## 3 今後の活用

アンケート結果は、庁内各課と共有し、各種会議のほか、今後の施策の立案や評価・見直し等の過程において基礎資料として活用する。